第３回　練馬区の将来像を考える区民懇談会－教育分野

（別紙）

地域における教育環境

地域における教育環境

- 地域結束の希薄化
連ケイではなく、キズナの方がメッセージ性があるのではないか。
- 多様性を受け入れる環境ー学校･家庭･地域
･余裕
･集団の中で人は育つ
- 課外学習の充実
↓
地域の住民･施設との連携
- 社会人との交流活動の活発化
（学校教育において）
- 図書館、ふるさと文化館どのように活用するのか。

交流･対話

- 地域交流というがネット化した社会で人々を外に出すのはむずかしい。
- IT社会により人との会話が少ない。
→学校教育において言語力の向上
- 引きこもらず外へ出かけて交流できるように区内交通網など整備
- 幅広く個人で参加できる場を提供する（ボランティア、奉仕活動）なども含む。
- 地域の中で子ども、老人などが参加できる施設と引きつけるような、結びつけるものがある。
- 一人でも生きられるように行政が取り組む。
生涯学習だけでなく地域に貢献できる。

練馬区らしさのアピール（強調）

- 抽象的で具体化されていない。ありきたりでオリジナリティがない。
- 解決したい事柄や問題提起がわかりにくい。

行政の課題

行政の課題

- 教員の身分が県費負担職員であるため、優秀な人材が他区市へ流出し、練馬区独自の教育施策が十分に実現できていない（人事権は都教委が握っている）。
- 保育園･幼稚園･小中学校･児童館･学童クラブ･青少年育成委員会他、子育てのための施設（機関･組織）の運営が、タテ割行政で行われているため、連携が不十分である。
- 現行の教育制度、教育委員会、教員組合の問題点
･顧客志向でない
･教員評価制度
等
の見直し改善を行う必要がある。
- 学校経営力向上策として、企業経営ノウハウの活用
･民間校長の登用
･民間教員の採用
･コンプライアンス体制の確立
- 幼･保一元化、こども園、小･中一貫校、中･高一貫校等の創設に積極的に取り組むべきである。
※現在は一つもない
- 文部科学省が全国規模で推進している「地域運営学校（コミュニティ･スクール）」事業に練馬区も参画するべきである。
※練馬区教委は不参画を決定した。

行政の課題

- 教員の資質
- 学校･教員の負担を考える。
- 教員の多忙･雑用

学校教育のあり方

子どもの体力育成

- 子どもの体力育成には幼稚園からの計画性のある実践を進める。
- 食育

学校教育のあり方

- 「公立･私立の差」をなくすのは大事だと思う。教育格差をなくすべき。
- それぞれの子どもの特性（状態）に合わせた学校教育がなされない。
（見る、関る････）
- “塾”を当然とする現状
ー公教育の自信は？
- 教育の認識間違い
（日本語と英語の違い）
「子ども（人）のよさや潜在能力を引き出すこと」ーオシエ･ソダテルことではない。
- 学校で、算数･国語の時間数がかなり減り、基礎学力がなかなか身につかない。

施設整備と建設

- 問：野球場、陸上競技場、武道場、体育館を観覧席のあるスポーツ施設を建設するには広大な土地が必要です。
課：光が丘公園等都の施設を利用する。
- 問：予算面でかなり厳しいが。
課：国や都への援助や要望を行う。
平成25年東京国体、平成28年東京オリンピック実現に向けて
- 図書館の充実
23区中22位の状況を、区平均くらいまで。
- 国立、都立の施設や国策･都政とのすみわけは？
- 施設整備に民間活用

世代間のつながり

世代間のつながり

- 幼･小･中･高･大のたてのつながりを深め。世代間のギャップをなくす。
（青少年委員によるジュニアリーダーの活用）
- 少子化･高齢化に即応した学校運営をハード･ソフト面で見直す必要がある。
ハード･･･幼･小中学校、シニアスクールの一体化
ソフト･･･子どもの教育にシニアの活用等

シニア世代の活用 地域人育成へ向けて

シニア世代の活用

- 望ましい社会像と望まれる人間のあり方･生き方
- 地域で育てる学校
地域人育成についてはとなり近所のあいさつすらしない人、単身も多く、人と人とのつながりが大切にされていない。自分は自分という心の人が多い。
- 望ましい関係性
- 常識や大人のルールを知らない子どもが多くなった。
−地域、学校、家庭の連携で再教育する。
−必要であればその親も再教育する。
- 学校･家庭･地域の連携には常に核となるものをおさえていく。
- 家族団らん･･･
食事も一緒にとらない、母親も仕事で忙しい、愛情をかける時期という大切さを忘れては、将来よくならない。
- 命･人権の尊重
親の背を見て育つ、また、子どもを見れば親がわかるといわれている。親が親になっていなくて、子どもは子どもの世界のような思いやりがない時代が問題で、ますます増える。

家庭教育の環境

家庭教育環境

- 基本的な日常生活習慣がされてない
- 家庭教育の躾が幼少時大切ですが、親の経済的・精神的な考え方に余裕がない。
- 夕食を家族でとらない（個食）子ども。
- 父親らしさを支援する制度が必要では？
- 親子が一緒にいられる時間を増やす努力。
- 家庭における躾の放棄
- 子どもの教育は家庭教育（育ちよう）が基盤になることを肝に銘じるべきである。
- まず、親自身が自己中心主義、金銭至上主義を改めることが先決である。
- 親は子どもにとって、いいお手本になるように生活態度を改めていくことが大事である。
- 人間性づくりは、家庭教育（特に、幼児期・少年期）の精神（心）の豊かさを養う努力が最も大事。

正義・道徳の欠如

- 公共道徳の欠如
- 宗教心の欠如（宗教心は道徳、生命、倫理の源）
- 平気でうそをつく子どもが多い（正義の欠如）

家庭・家族

- 大家族の時にはひとつの家庭の中でバランスがとれていたことを、バラバラで一人家の中にいる老人、子ども、主婦などを相互に助けあえるシステムづくり
- 家族そろって会話を楽しみながら食事をとるというが、いろんな家庭があるのでむずかしい。
- 朝食を食べていない。家族そろって夕食をとらない。
- 家の中で働く人、家事をする人、子ども、老人
↓
地域でその役割ができるか。
- 働き方を考え直す
- 時間が足りない
- 子どもたちに命の大切さが理解されていない→道徳教育
- 家庭・学校だけでなく地域で社会規範やルールなどを学ぶ場がある。
- 家庭において自らが親として人格を高めるべき努力が大事である。
- 家庭、学校、社会の三者一体の活動を推し進めたい。そのために人間関係を生かす。
- 家庭は夫婦、親子で構成する小さな社会集団である。生活基盤の場、生きるための生活の場と心得よ！！

ボランティア・奉仕活動の奨励

奉仕活動の活用（ボランティア）

- 奉仕活動を全小中学生に必須とする。（自己犠牲ととらえる人がいるが）
- 奉仕活動は「思いやり、社会規範、非行防止」につながる意識をもたらす。
- 自立・社会性・協調性を身につけた子ども達。
- ボランティア活動が実践される機会を多くつくる。
- ボランティア活動と奉仕活動の違いを認識する。
- 学校・家庭・地域の連携づくりとして、三者一体となって参加するボランティア活動（地域清掃等）。

ボランティア・奉仕活動の奨励

- 奉仕活動の積極的展開。（社会奉仕）
- ボランティア活動の奨励。

障がいへの理解

障がいへの理解

- 地域社会、また、家庭においてもハンディのある人、ハンディの内容（特に発達障害）について理解がない。
- 障がい者でなくても区別し争いあっているのが現状。

大人教育

子どもの教育は大人から

- 保護者（大人）の我が子中心的姿勢。
−進学・学力中心
−競争優先
- 自己責任社会であることが認識されていない。
- 挨拶をしない大人と返事をしない子ども

マナー

- 社会人のマナーの悪さ
地域清掃で最多のゴミはタバコの吸殻

少子化問題

- 子どもがたくさん生まれる区になる、というが。
子どもが減っているのは結婚率が減っているから。それをどう思うか。